



Kaspersky Security Center Cloud Console
エンドポイント導入ガイド
(ディストリビューションポイント使用)

2022/11/22

株式会社カスペルスキー
セールスエンジニアリング本部

Ver. 1.0

目次

1. はじめに	3
1.1. 本資料の目的	3
2. 用語説明	4
3. ワークスペース作成から運用開始までの流れ	5
4. KSC CC へのログイン	6
5. ネットワークエージェントのインストール	9
5.1. スタンドアロンインストールパッケージの準備	10
5.2. ネットワークエージェント 対話型インストール	13
5.3. IT 資産管理ソフトウェア等を利用した NA のリモートインストール	15
6. ディストリビューションポイントの設定	16
6.1. 事前準備	16
6.2. ディストリビューションポイントの割り当て	17
6.3. デバイス上でのディストリビューションポイント確認	21
7. KES for Windows のインストール	22
7.1. インストールパッケージの準備	22
7.2. リモートインストール	25
8. Appendix	32
8.1. ネットワークエージェントスタンドアロンインストールパッケージ作成後の有効期間	32

1. はじめに

1.1. 本資料の目的

本資料では、カスペルスキーが提供するクラウドベースの管理コンソールである「Kaspersky Security Center Cloud Console (KSC CC)」を初めて使用するユーザー様に、管理下とするデバイスに対しネットワークエージェント、及び Kaspersky Endpoint Security for Windows をインストールする手順についてご説明いたします。

インストールする方法として、ディストリビューションポイントを構成し、KSC CC からリモートインストールする手順についてご説明します。

KSC CC のアカウント登録、ワークスペース作成に関する手順につきましては、別途「**Kaspersky Security Center Cloud Console ワークスペース作成ガイド**」をご参照ください。本資料中では「KSC CC ワークスペース作成ガイド」と略しています。

同じく、「Kaspersky Security Center Cloud Console エンドポイント導入ガイド (ディストリビューションポイント未使用)」を「KSC CC エンドポイント導入ガイド (DP 未使用)」と略しています。

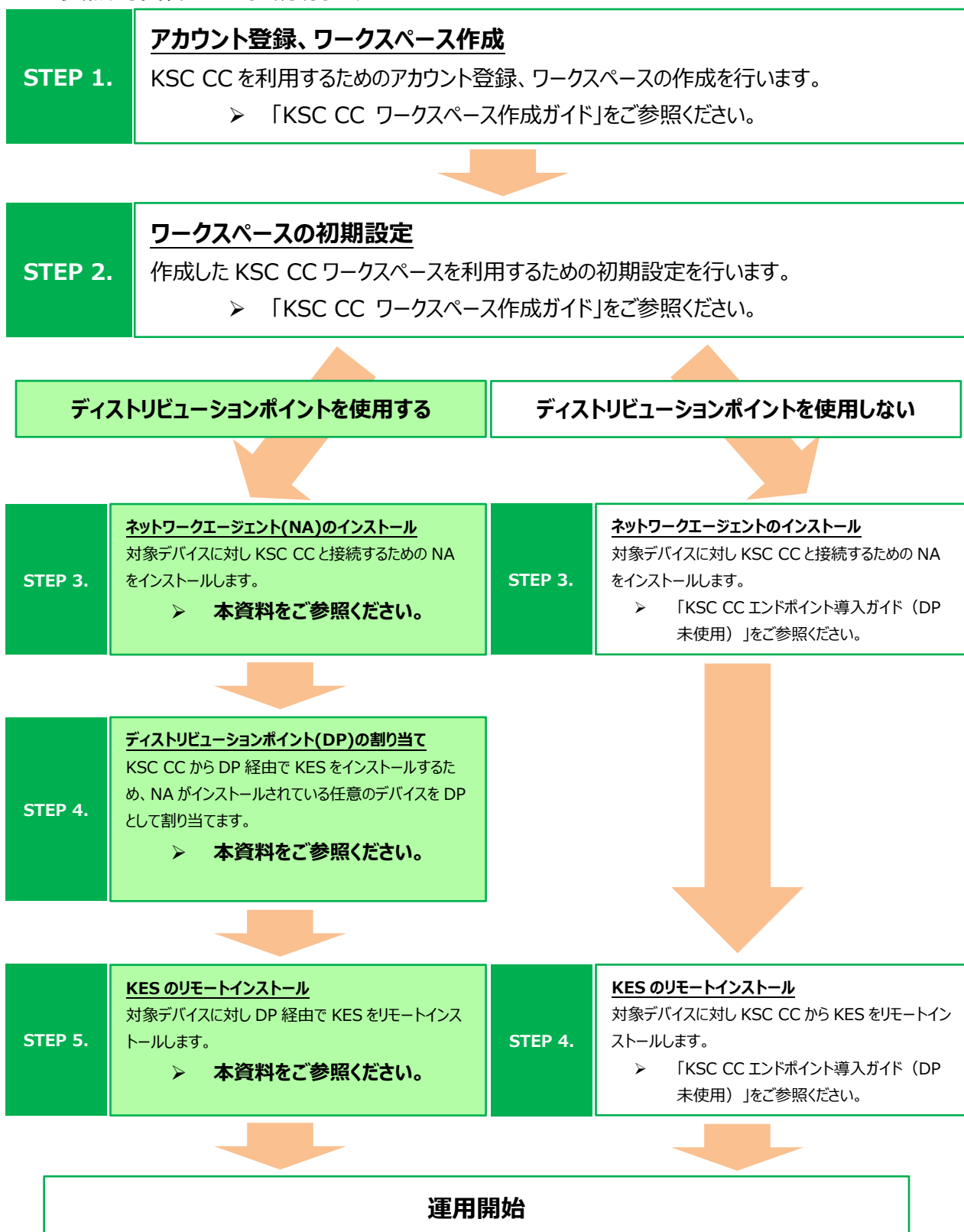
2. 用語説明

本資料で使用される用語についてご説明します。

- ① **Kaspersky Security Center Cloud Console (以降 KSC CC) :**
Kaspersky 製品を管理するクラウドベースの管理コンソールです。
Kaspersky Security Center ネットワークエージェントがインストールされたデバイスの管理を行います。
- ② **Kaspersky Endpoint Security for Windows (以降 KES for Windows) :**
デバイスを保護するアンチウイルスアプリケーションです。
管理サーバー及び管理下のコンピューターにインストールされます。
- ③ **Kaspersky Security Center ネットワークエージェント (以降 NA) :**
KSC CC とデバイスが通信するために必要となるアプリケーションです。
管理下のデバイスにインストールされます。
- ④ **ディストリビューションポイント (以降 DP) :**
KSC CC では任意のデバイスに対し、「ディストリビューションポイント」という役割を設定することができます。
「ディストリビューションポイント」の役割を設定したデバイスは、ローカルネットワーク内の他のデバイスにインストールパッケージの配信や定義データベースを配布する役割を持ちます。
各デバイスがインターネットにアクセスしてインストーラーや定義データベースを直接ダウンロードすることを抑制し、トラフィック軽減に役立ちます。

3. ワークスペース作成から運用開始までの流れ

KSC CC のワークスペース作成から管理下となるデバイスに対してエンドポイントをインストールするまでの流れ、および参照する資料についてご説明します。



4. KSC CC へのログイン

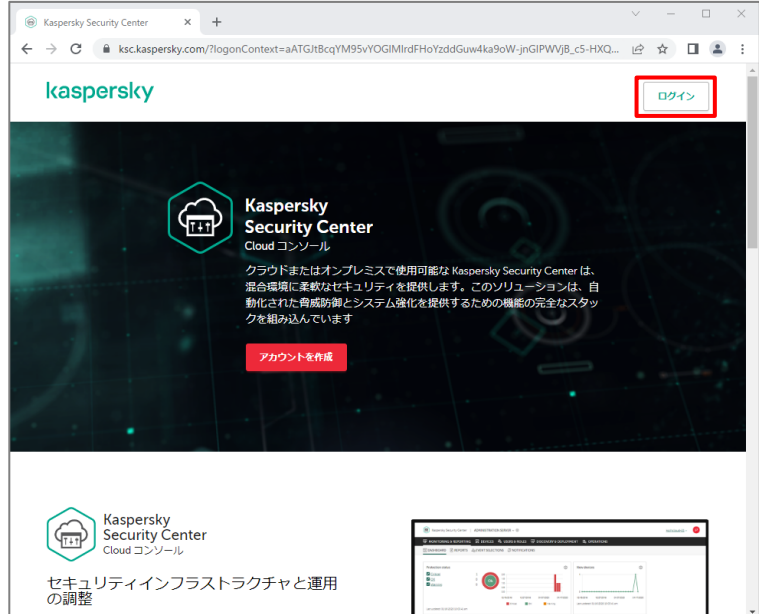
KSC CC のワークスペースへログインします。

- (1) ブラウザーを起動し、以下 URL にアクセスします。

<https://ksc.kaspersky.com>

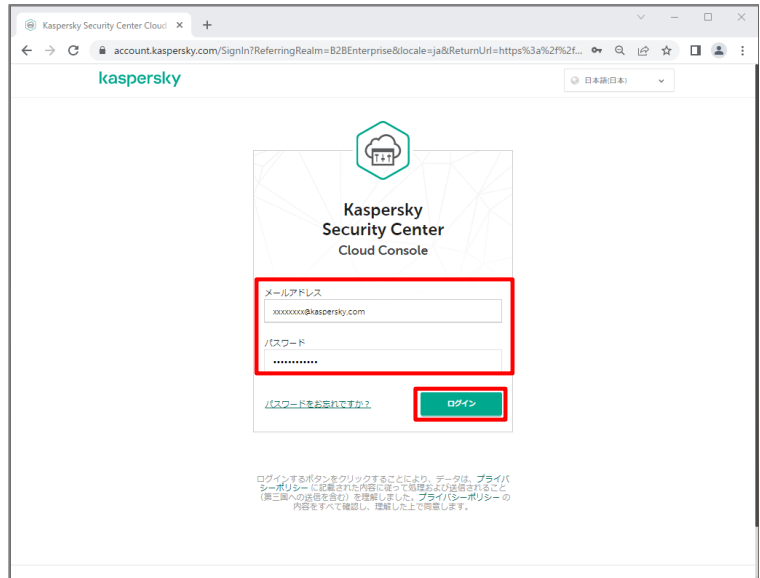


- (2) 「ログイン」をクリックします。

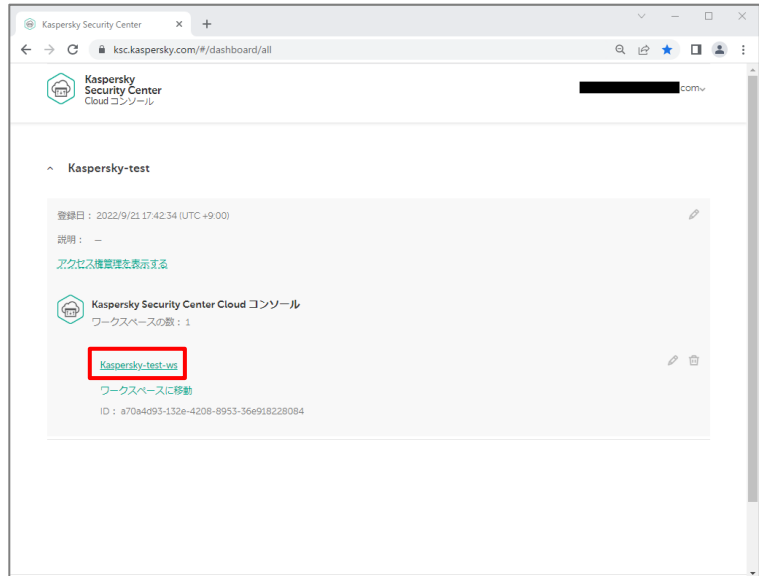


kaspersky

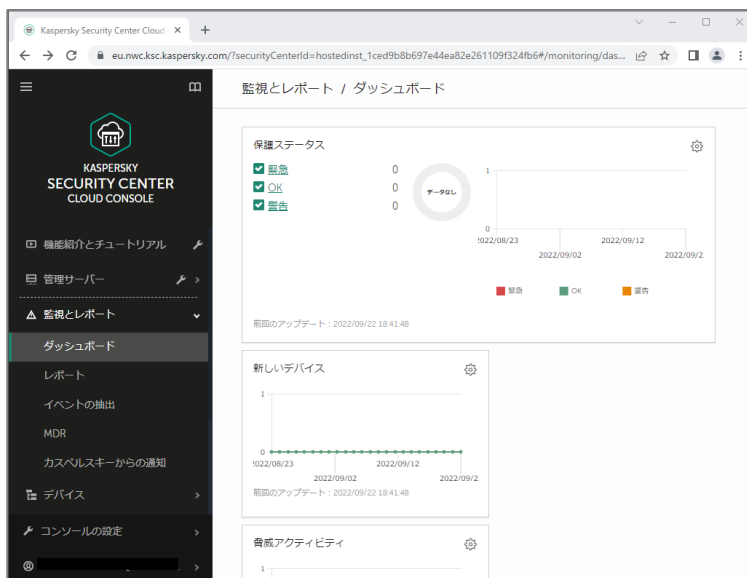
- (3) Cloud Console にログインします。
登録したアカウントのメールアドレス、パスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。



- (4) アカウントに登録されたワークスペース情報が表示されます。
<ワークスペース名>をクリックし、ワークスペースへ移動します。



(5) ワークスペースのダッシュボードが表示されます。



本章は以上です。

5. ネットワークエージェントのインストール

本章では、KSC CC で管理するデバイスに対して NA をインストールする方法についてご説明します。

NA のインストーラーは KSC CC のクイックスタートウィザードを実施することで KSC CC 上に登録されます。
NA のインストールは通常以下の方法でインストールを行います。

Step1. NA のスタンドアロンインストールパッケージの準備

→ 「5.1. スタンドアロンインストールパッケージの準備」の手順を実施してください。

Step2. NA のインストール

方法 1: 対話型インストール

→ 「5.2. ネットワークエージェント 対話型インストール」の手順を実施してください。

方法 2: 資産管理ソフト等を使用したリモートインストール

→ 「5.3. IT 資産管理ソフトウェア等を利用した NA のリモートインストール」の手順を実施してください。

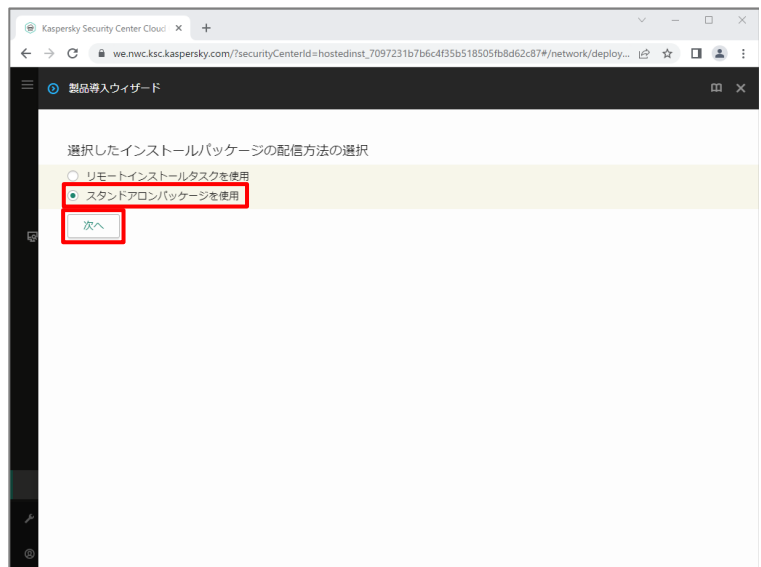
5.1. スタンドアロンインストールパッケージの準備

ここでは、NA のインストーラーであるスタンドアロンインストールパッケージを準備する手順についてご説明します。

- (1) KSC CC コンソールのメニューにて、「検出と製品の導入」-「導入と割り当て」-「インストールパッケージ」を選択します。一覧から「NA」にチェックを入れ、「製品の導入」をクリックします。

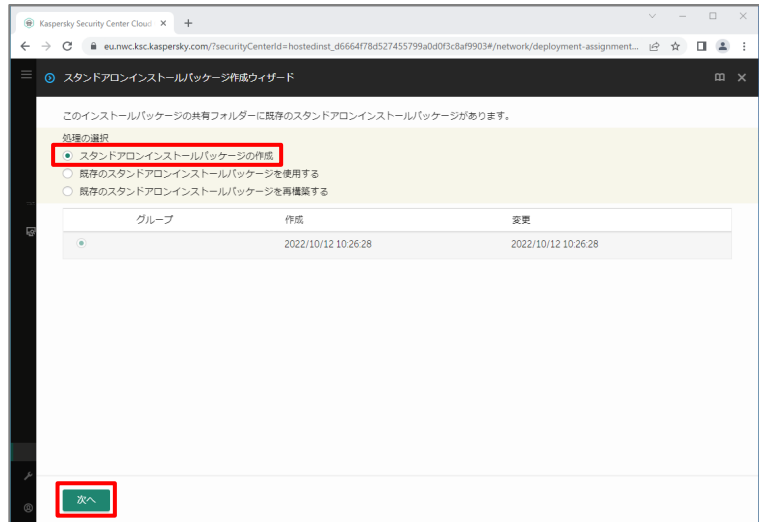


- (2) 製品導入ウィザードが起動します。「スタンドアロンパッケージを使用」を選択し、「次へ」をクリックします。



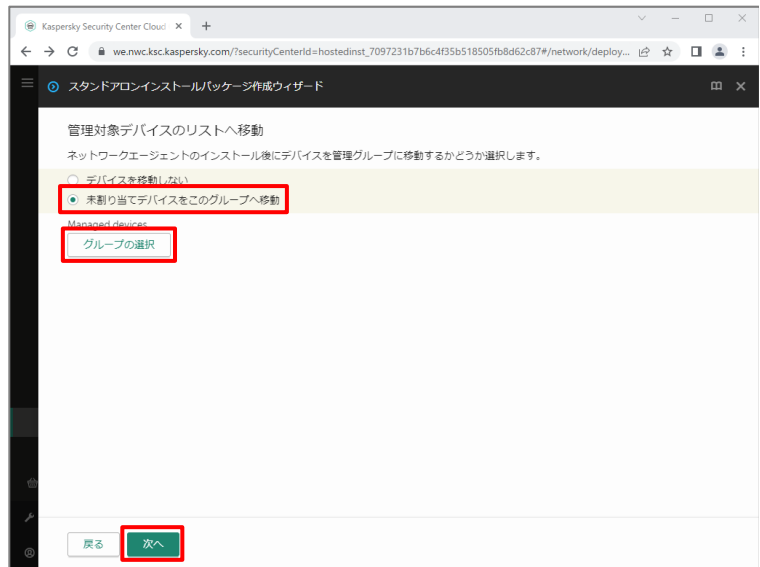
kaspersky

- (3) クイックスタートウィザードで作成済みのものがありますが、ここでは新規作成するため「スタンドアロンインストールパッケージの作成」を選択し、「次へ」をクリックします。

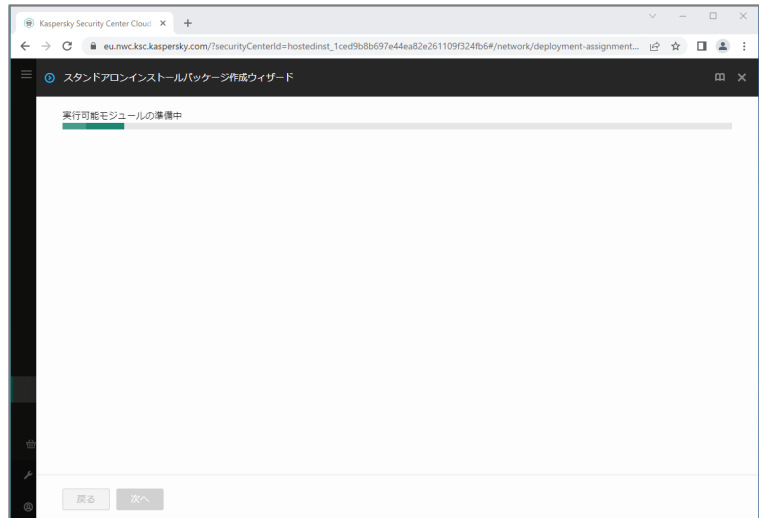


- (4) NA のインストール後に自動的にデバイスを配置するグループを選択します。「未割り当てデバイスをこのグループへ移動」を選択し、「グループの選択」をクリックしてグループを選択します。

ここでは「管理対象デバイス(Managed devices)」を選択し、「次へ」をクリックします。



- (5) スタンドアロンインストールパッケージの作成が開始します。完了までしばらく待ちます。

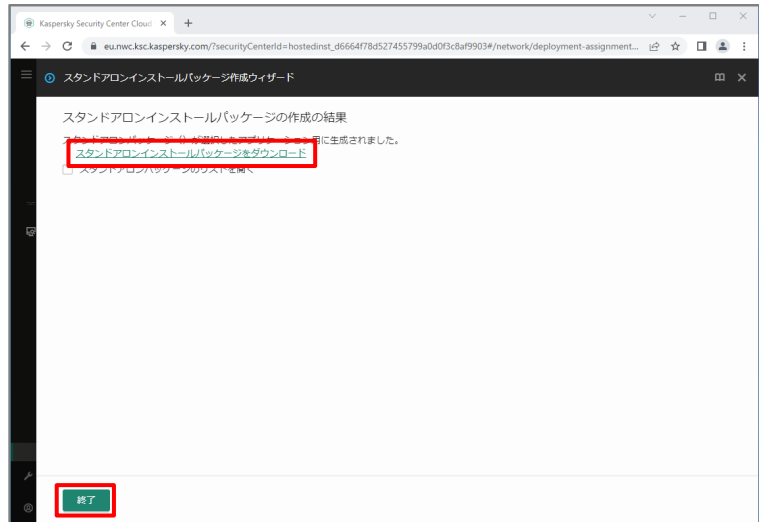


kaspersky

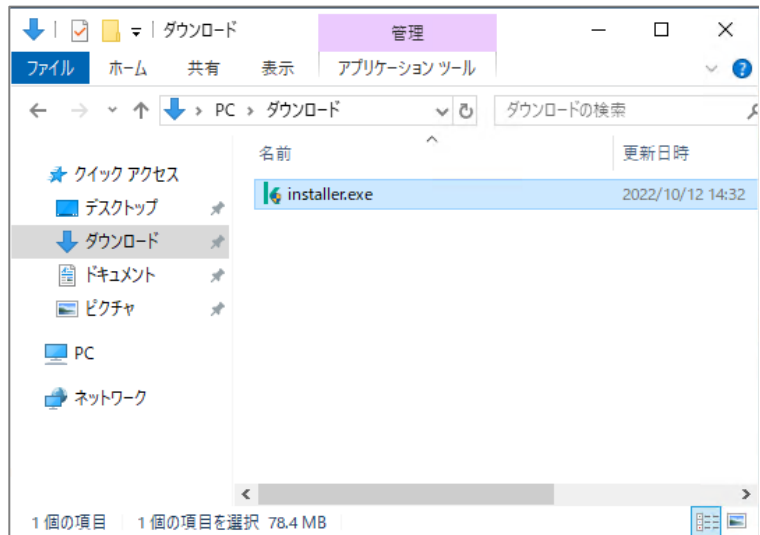
(6) 正常に作成されたことを確認します。

「スタンドアロンインストールパッケージをダウンロード」をクリックし、NA のインストーラー (installer.exe) をダウンロードします。

ダウンロード完了後、「終了」をクリックします。



(7) インストーラー (installer.exe) が正常にダウンロードされたことを確認します。

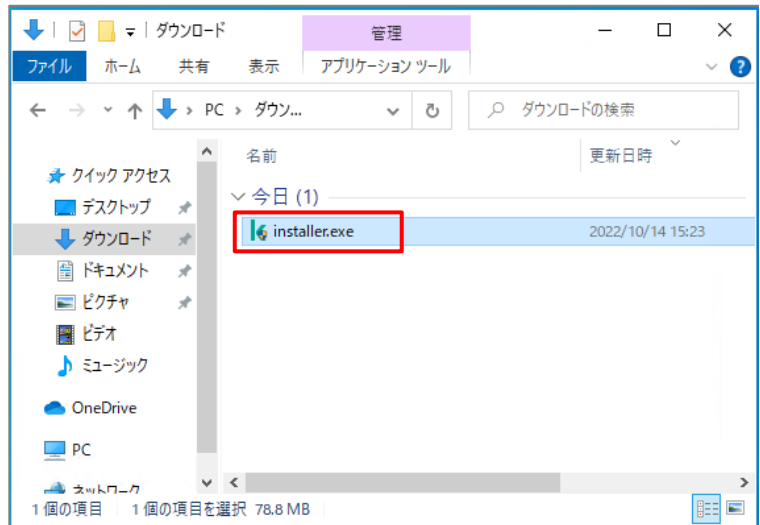


本節は以上です。

5.2. ネットワークエージェント 対話型インストール

ここでは、ダウンロードしたインストーラーをデバイス上で直接実行する手順についてご説明します。

- (1) ダウンロードしたインストーラーを対象のクライアントデバイス上にコピーします。
コピーしたインストーラーを管理者権限で実行します。



- (2) インストールウィザードが起動します。
「インストールの開始」をクリックします。



- (3) インストールが開始されます。
完了までしばらく待ちます。

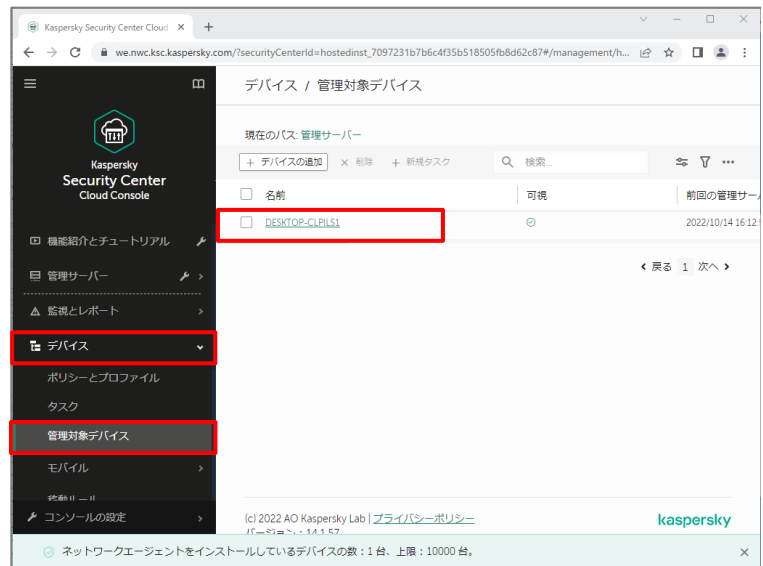


kaspersky

- (4) インストールが正常に完了すると、「Installation completed successfully」と表示されます。
全ての項目にチェックが入っていることを確認し、「OK」をクリックします。



- (5) KSC CC コンソールにて、「デバイス」-「管理対象デバイス」を選択します。
NA をインストールしたクライアントデバイスが表示されていることを確認します。



本節は以上です。

5.3. IT 資産管理ソフトウェア等を利用した NA のリモートインストール

IT 資産管理ソフトウェアを使用している場合、IT 資産管理ソフトウェアのリモートインストール機能を利用して NA のインストールを行うことが可能です。

インストールは「**5.1 スタンドアロンインストールパッケージの準備**」にて作成したスタンドアロンインストールパッケージを使用します。

スタンドアロンインストールパッケージに **/s** オプションを指定して実行することで確認のダイアログが表示されることがなく、サイレントインストールが可能となります。（例 **installer.exe /s**）

Active Directory グループポリシーを利用したインストールの場合は、ポリシーのスタートアップスクリプトを使用することでインストールが可能です。

6. ディストリビューションポイントの設定

本章では、NA がインストールされたデバイスを、ディストリビューションポイントとして設定する手順についてご説明します。

ここでは、「管理対象デバイス」グループに所属するデバイスが参照するディストリビューションポイントを設定する手順をご説明します。

6.1. 事前準備

- **ディストリビューションポイントとなるデバイスの選定**

ディストリビューションポイントとして設定できるデバイスは Windows OS か Linux OS のどちらかで、かつ NA が導入されている必要があります。

複数のデバイスがディストリビューションポイントを参照するため、パフォーマンスを考慮し Windows サーバー OS を割り当てることをお勧めします。

また、Linux OS の場合、Windows OS と比較し設定できる項目が少なくなります。

<https://support.kaspersky.com/KSC/CloudConsole/ja-JP/172012.htm>

- **ディストリビューションポイントを割り当てるグループの選択**

どのグループに対し、ディストリビューションポイントを割り当てるか選択します。

グループに対し、複数のディストリビューションポイントを構成することが可能です。

また、ネットワーク疎通が可能であれば、1 台のディストリビューションポイントを複数のグループに割り当てることも可能です。

- **各デバイス - ディストリビューションポイント間のネットワーク設定**

各デバイスは NA を使用してディストリビューションポイントに対し 13000/TCP の通信を行います。

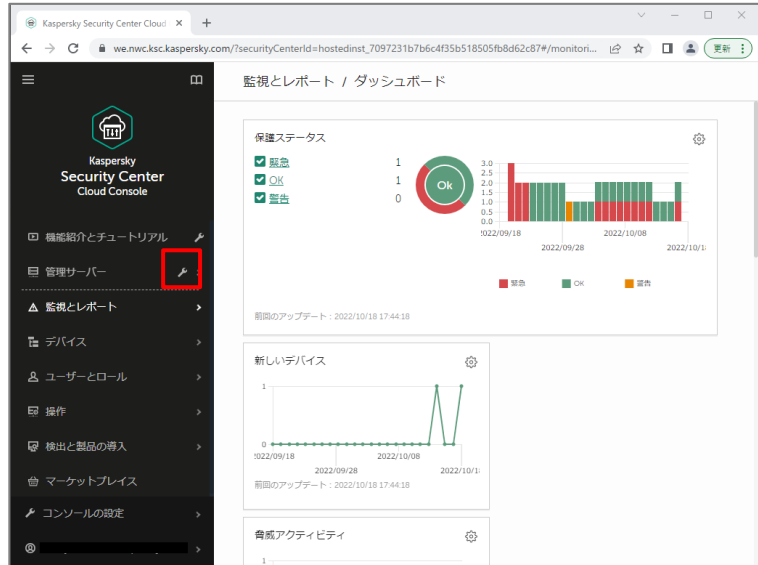
事前にこの通信が実現できるよう、以下ネットワーク設定をご確認ください。

<https://support.kaspersky.com/KSC/CloudConsole/ja-JP/158830.htm>

6.2. ディストリビューションポイントの割り当て

NA が導入されている任意のデバイスをディストリビューションポイントとして割り当てる手順についてご説明します。

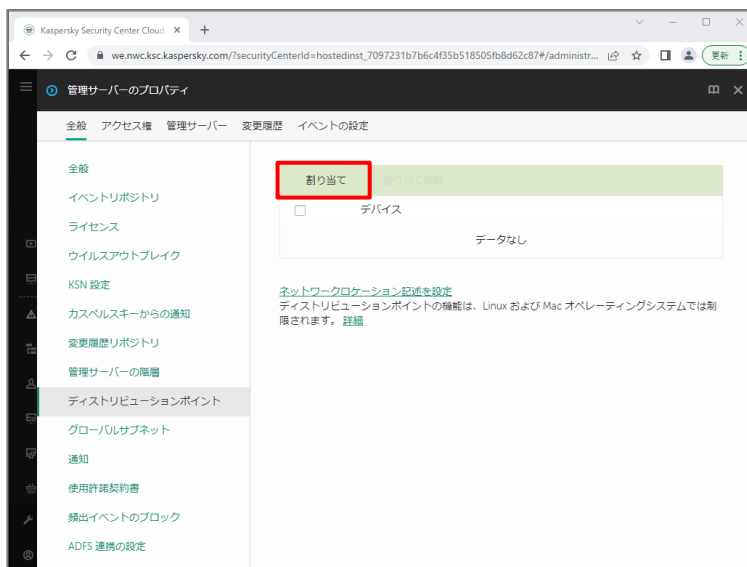
- (1) KSC CC コンソールにて、「管理サーバー」の右側にあるスパナのアイコンをクリックします。



- (2) 「全般」タブにて「ディストリビューションポイント」を選択します。



(3) 右画面にて「割り当て」をクリックします。



(4) 一覧から、ディストリビューションポイントとして割り当てるデバイスにチェックを入れます。

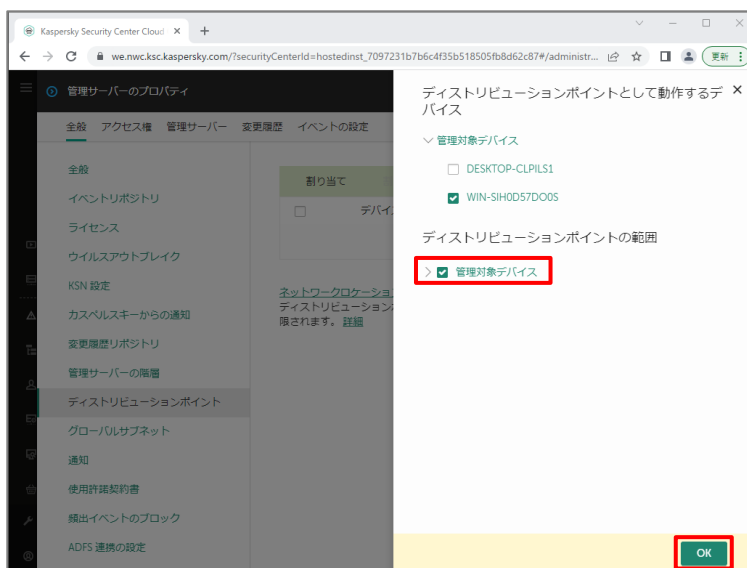


(5) 「ディストリビューションポイントの範囲」にて、上で選択したデバイスを配布元とするグループを選択します。

ここでは「管理対象デバイス」グループを選択しています。

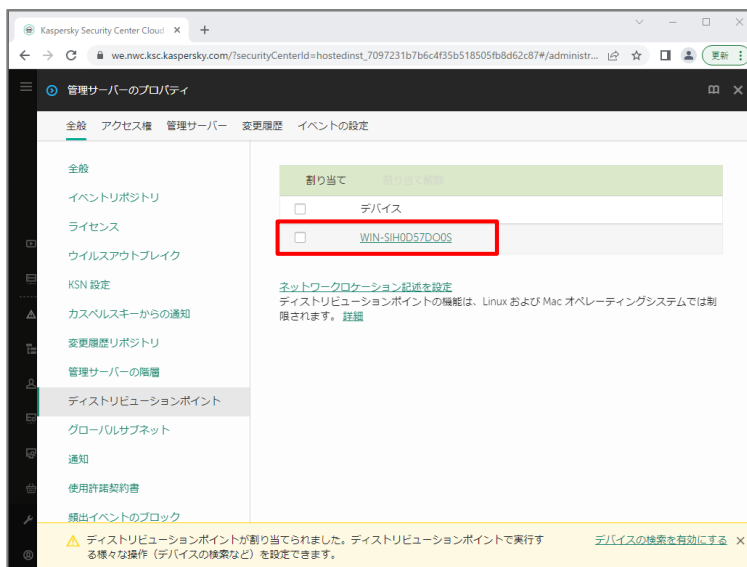
このグループ配下すべてのデバイスが、上で設定したディストリビューションポイントを参照します。

設定後、「OK」をクリックします。

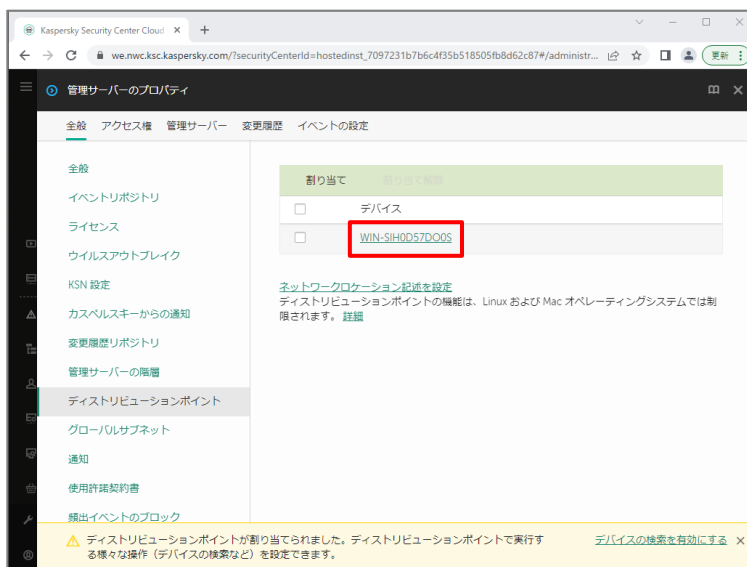


(6) 一覧に選択したデバイスが追加されていることを確認します。

以上で選択したデバイスはディストリビューションポイントとして機能します。



(7) 設定を確認する場合は、デバイス名をクリックします。

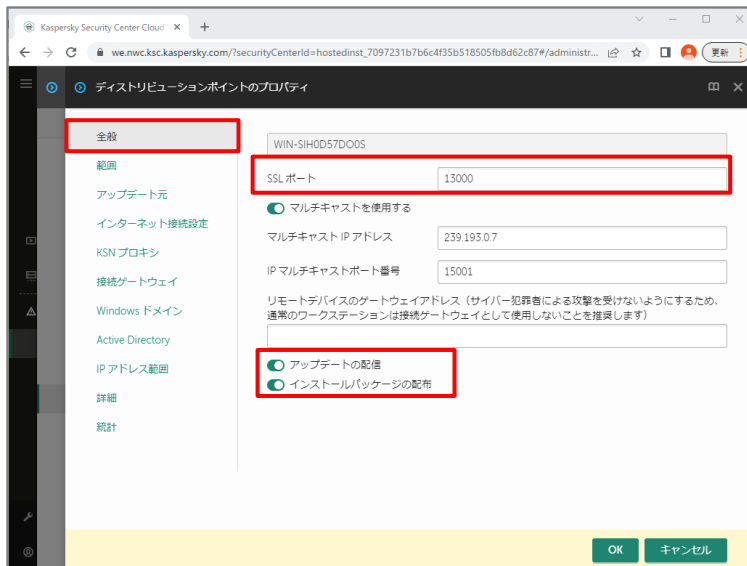


(8) 「全般」セクションでは、このディストリビューションポイントの設定を確認することができます。

「SSL ポート」に指定されている 13000/TCP にて NA の通信を待ち受けます。

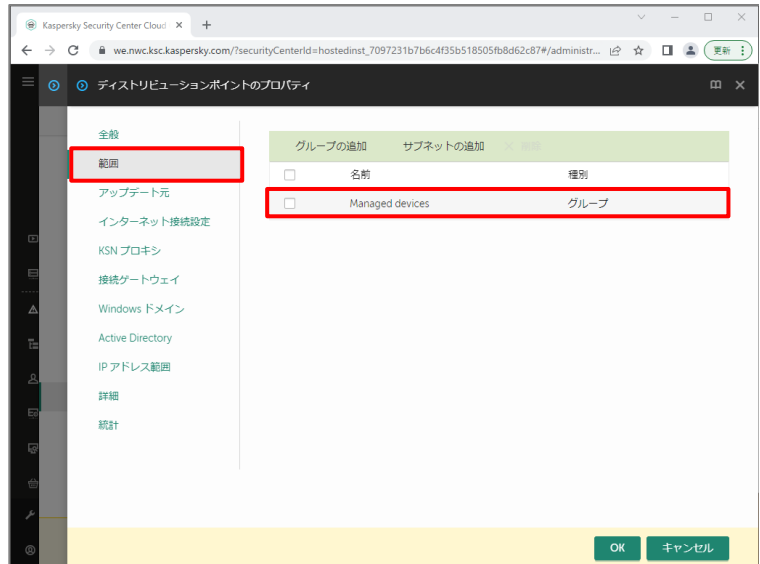
「アップデートの配信」、「インストールパッケージの配布」にチェックがあることで、定義データベースの更新元、リモートインストール時のインストールパッケージの配布元となります。

このチェックは外さないようご注意ください。



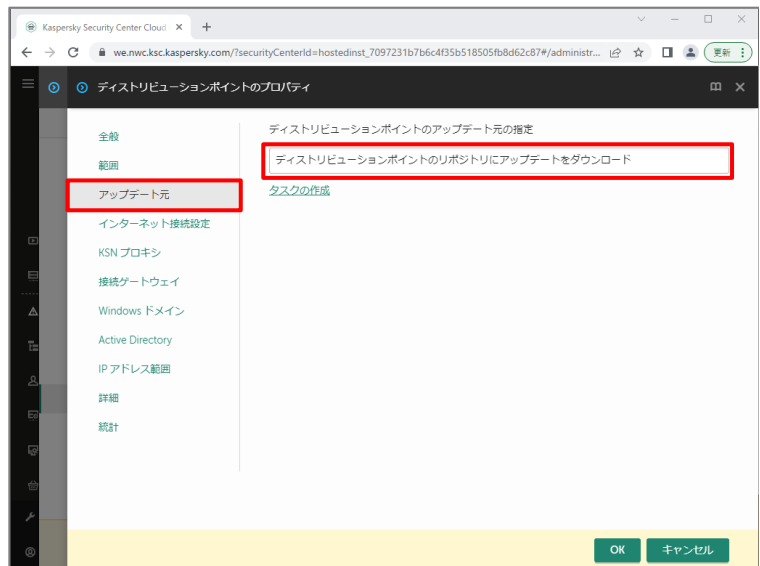
- (9) 「範囲」セクションでは、このディストリビューションポイントを参照するグループ情報を確認することができます。

「グループの追加」ボタンにて、別のグループを登録することもできます。



- (10) 「アップデート元」セクションでは、このディストリビューションポイントに対し、定義データベースをダウンロードするためのタスクが設定できます。

既定で KSC CC 上で作成されている「ディストリビューションポイントのリポジトリにアップデートをダウンロード」タスクが指定されており、1 時間毎に動作するようスケジュールされています。

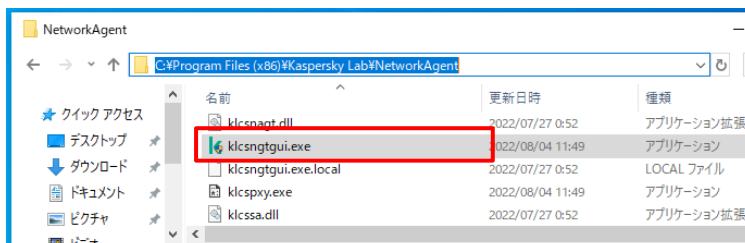


本節は以上です。

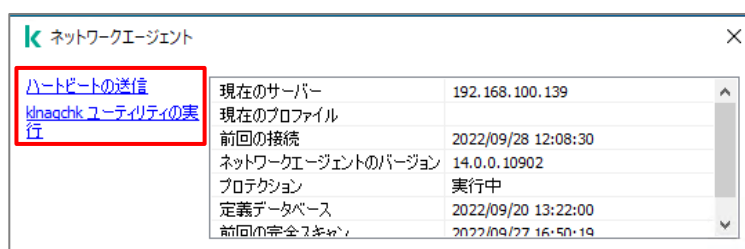
6.3. デバイス上でのディストリビューションポイント確認

クライアントデバイス上で、ディストリビューションポイントの参照が正常に行われているかどうかの確認方法についてご説明します。

- (1) クライアントデバイスにて以下パスにある「klcsngtgui.exe」を管理者権限で実行します。
- C:\Program Files (x86)\Kaspersky Lab\NetworkAgent



- (2) ネットワークエージェントのツールが起動します。
- 「ハートビートの送信」をクリックすると、KSC CC に対し NA の通信を手動で発行します。



「klnagchk ユーティリティの実行」をクリックします。

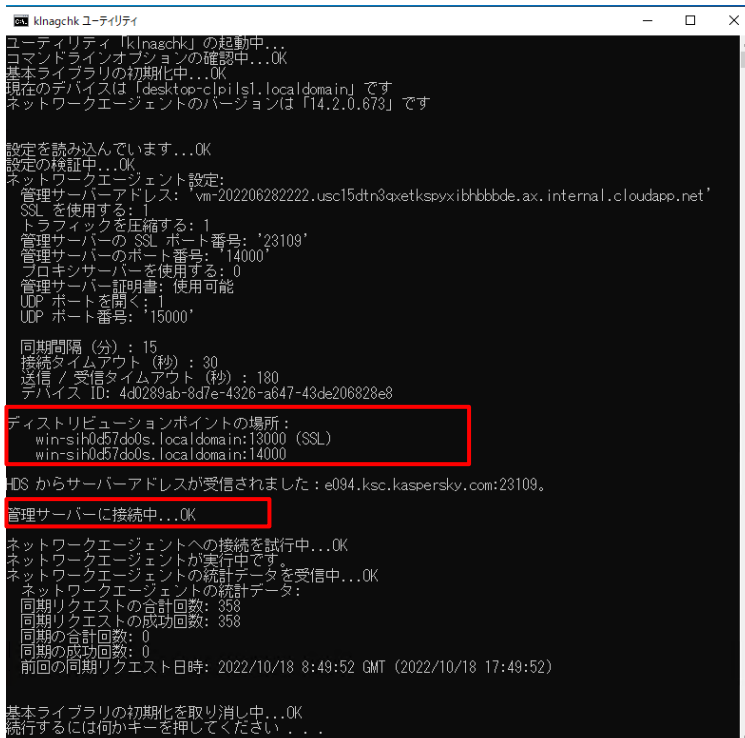
- (3) Klnagchk ユーティリティが DOS コマンドで実行されます。

「ディストリビューションポイントの場所」という項目に、設定したデバイスの情報が登録されていることを確認します。

注)

このツールは KSC CC との接続確認にも使用することができます。

「管理サーバーへ接続中」が「OK」となれば、KSC CC への接続は確立しています。「OK」以外の結果となる場合、KSC CC との疎通に失敗しているため、ネットワーク構成などをご確認ください。



本章は以上になります。

7. KES for Windows のインストール

ここでは、KSC CC から対象のデバイスに対し、NA を介してインターネット経由で KES for Windows をリモートインストールする手順についてご説明します。

7.1. インストールパッケージの準備

まず、KES for Windows のインストールパッケージを KSC CC に登録する手順についてご説明します。

- (4) KSC CC コンソールにて、「検出と製品の導入」-「導入と割り当て」-「インストールパッケージ」を表示します。

右画面にて「実行中」タブを開きます。

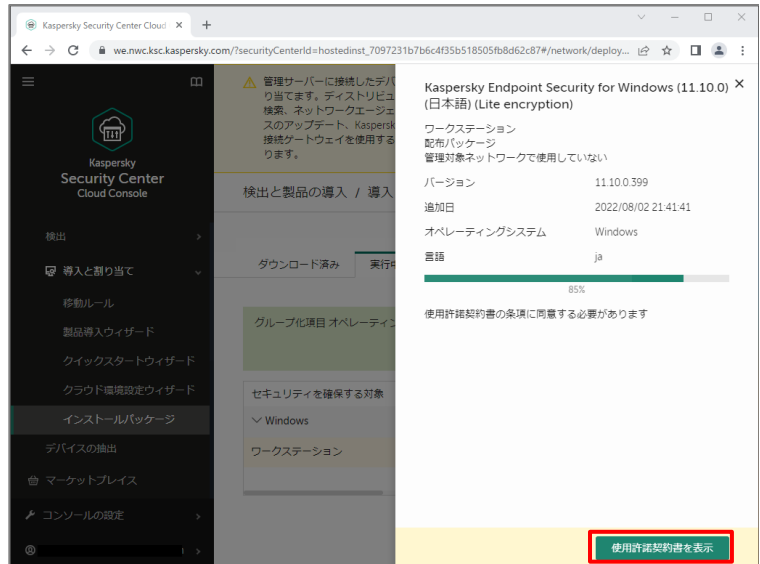


- (5) 「KSCCC 導入ガイド」の「6.管理サーバー初期設定」の手順を実施すると、右図のような状態となっています。

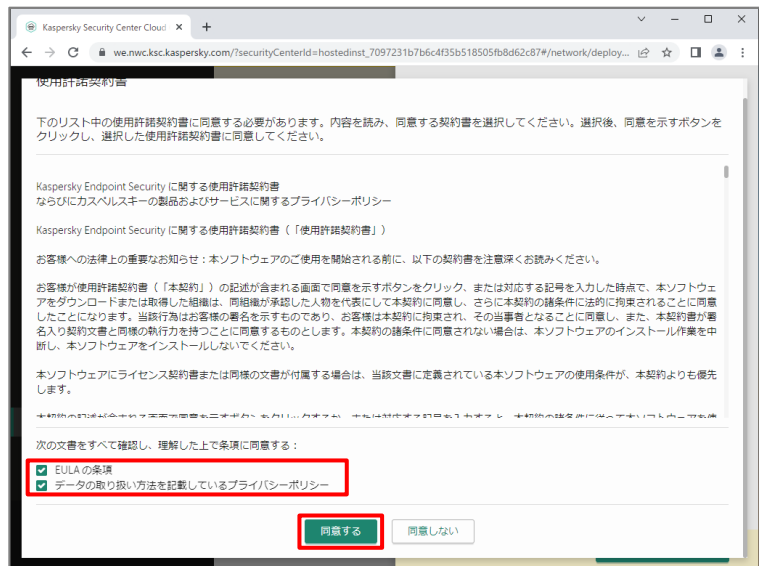
「KES for Windows」のリンクをクリックします。



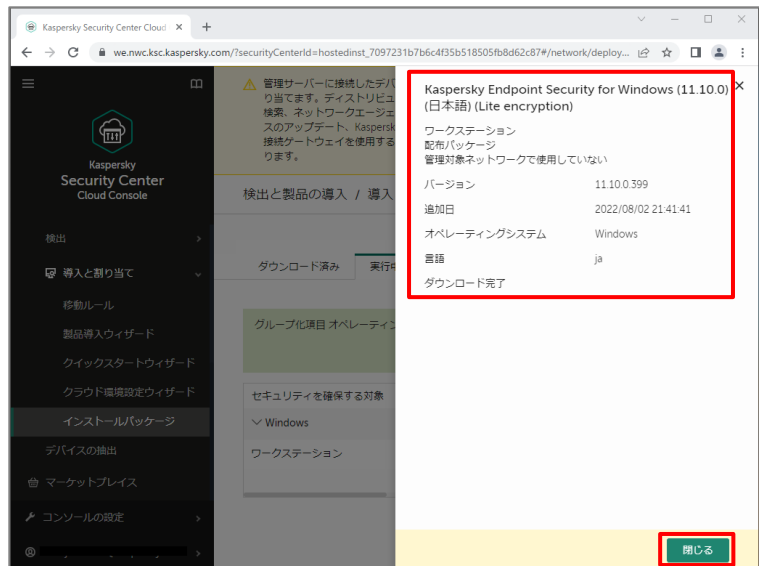
(6) 「使用許諾契約書を表示」をクリックします。



(7) 使用許諾契約書の画面が表示されます。使用許諾、及びプライバシーポリシーに関する画面が表示されます。内容を確認し、両方のチェックボックスにチェックを入れ、「同意する」をクリックします。



(8) 「ダウンロード完了」と表示されたことを確認し、「閉じる」をクリックします。



kaspersky

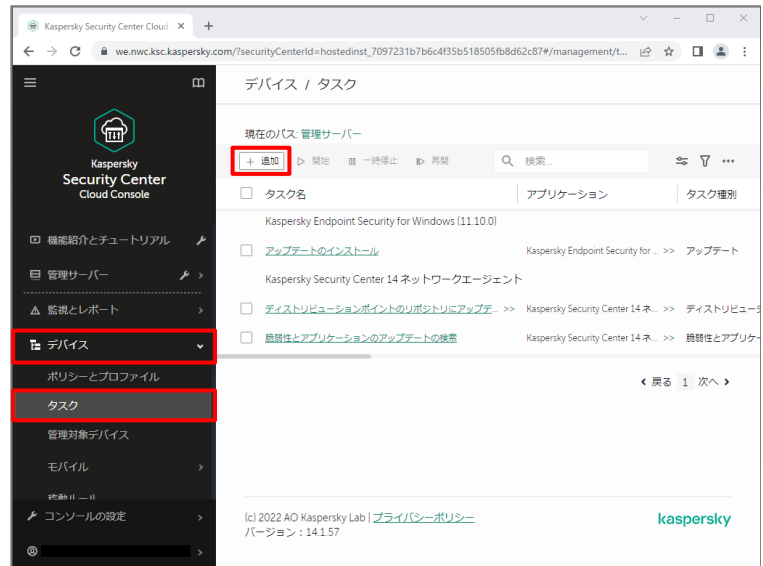
(9) インストールパッケージの一覧に「KES for Windows」が追加されたことを確認します。



本節は以上です。

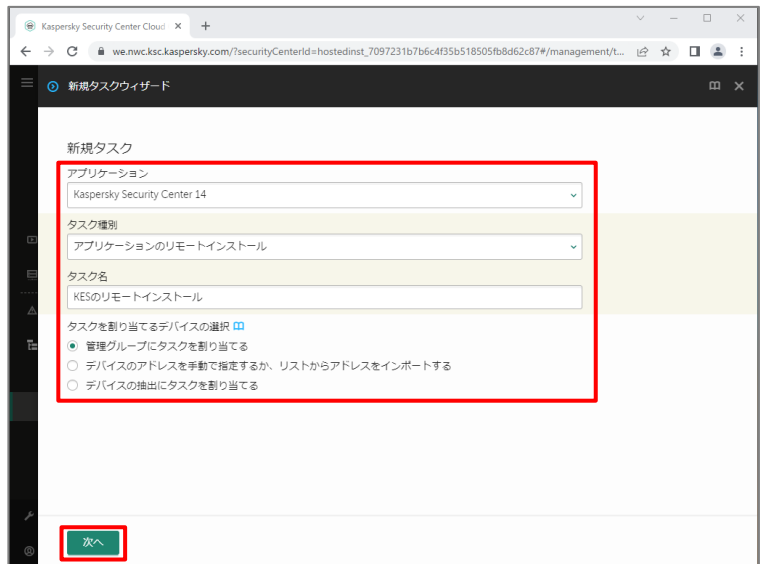
KSC CC のリモートインストールタスクを利用して KES for Windows をインストールする手順についてご説明します。

- (1) KSC CC コンソールにて「デバイス」-「タスク」を表示します。
右画面にて「追加」をクリックします。



- (2) タスク追加ウィザードが表示されます。
以下を設定し、「次へ」をクリックします。

- アプリケーション
Kaspersky Security Center 14
- タスク種別
アプリケーションのリモートインストール
- タスク名
任意の名前
- タスクを割り当てるデバイスの選択
管理グループにタスクを割り当てる



(3) タスクを実行するグループを選択し、「次へ」をクリックします。

ここでは「管理対象デバイス」とします。



(4) インストールパッケージに関する設定画面が表示されます。

以下を設定し、「次へ」をクリックします。

・インストールパッケージの選択

KES for Windows

・インストールパッケージの強制ダウンロード

ネットワークエージェントを使用する

ディストリビューションポイントを通じてオペレーティングシステムの共有フォルダーを使用する

注 1)

「同時ダウンロード数の上限」にて KSC CC から同時にダウンロードする台数をコントロールすることができます。

既定で「5」と設定されており、5 台まで同時にダウンロードが行われます。

注 2)

「アプリケーションが既にインストールされている場合再インストールしない」は既定で有効化されています。

タスクの実行対象デバイスに対し、この KES が既に導入されている場合、再インストールされず処理はスキップします。

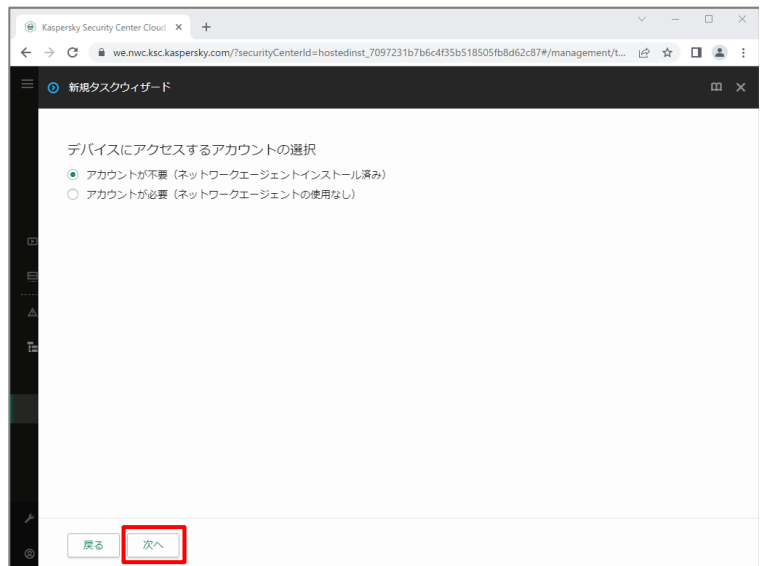


- (5) アプリケーションインストール後のクライアント OS の再起動設定画面が表示されます。任意の設定後、「次へ」をクリックします。

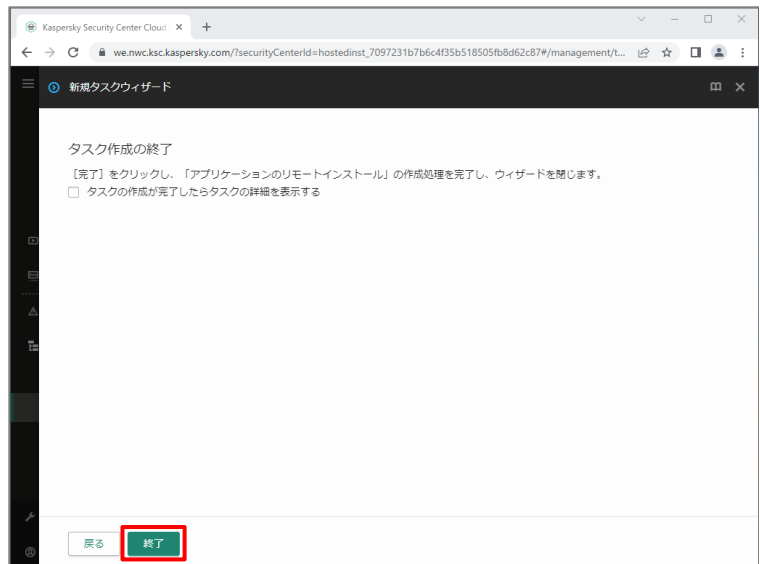
「ユーザーに処理を確認する」を選択した場合、再起動を促すメッセージを表示します。メッセージには日本語を入力できます。「デバイスを再起動する」を選択した場合、インストール完了後、すぐに OS の再起動が始まります。



- (6) デバイスにアクセスするアカウントの設定画面が表示されます。ここでは既定のまま、「次へ」をクリックします。

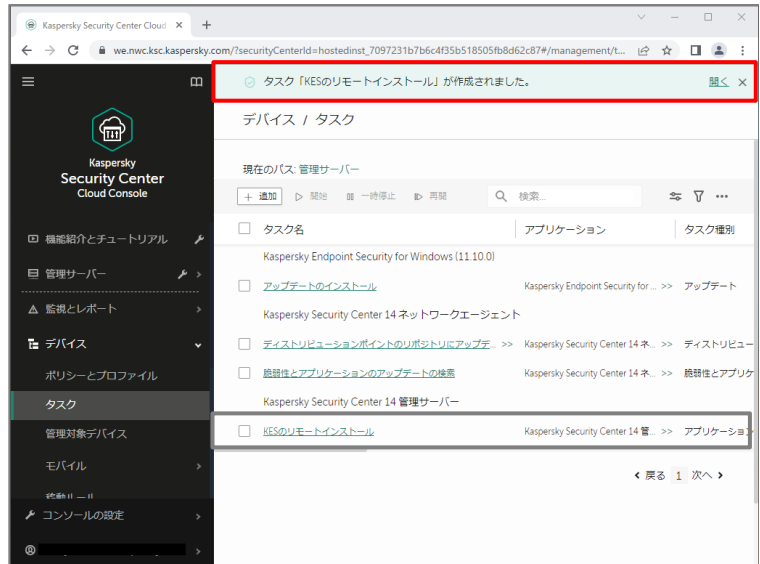


- (7) 正常に作成が完了したことを確認し、「終了」をクリックします。



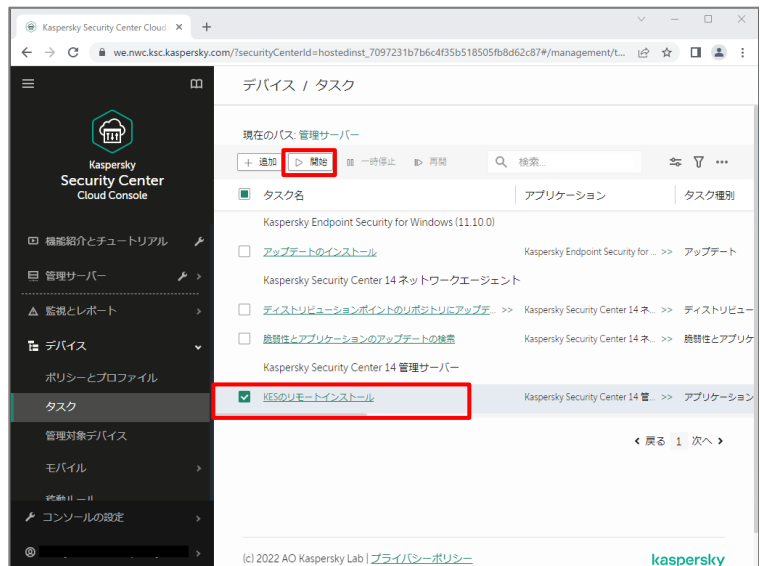
(8) 「タスク「任意の名前」が作成されました」とメッセージが表示されます。

また、一覧に作成したタスクが表示されていることを確認します。

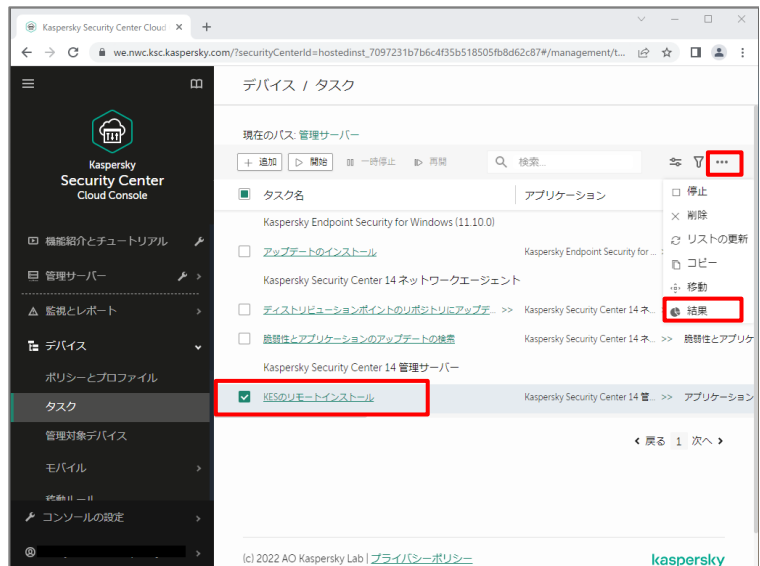


(9) 作成したリモートインストールタスクにチェックを入れ、「開始」をクリックします。

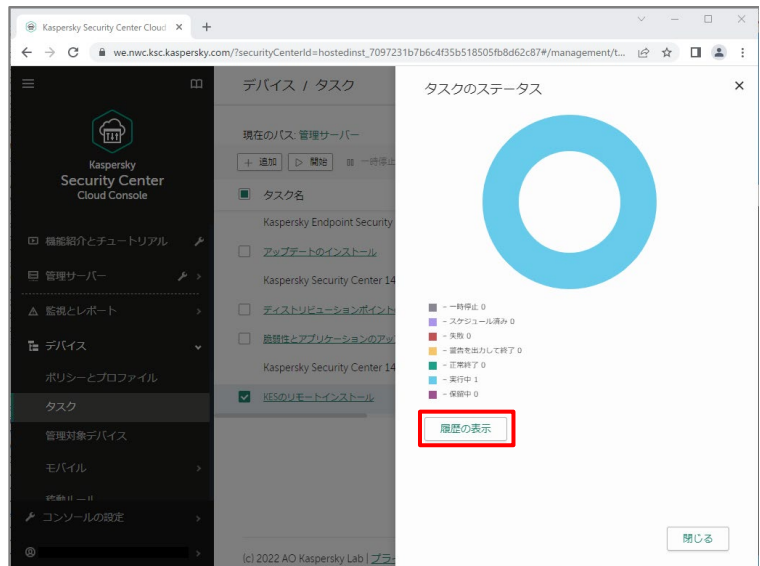
管理下のデバイスに対し、KESのリモートインストールが開始されます。



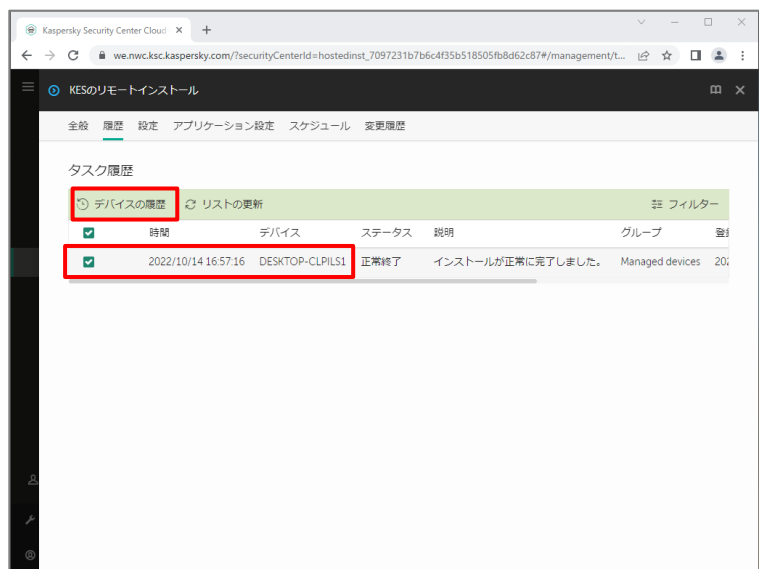
(10) タスクの進捗状況を確認する場合、開始したタスクにチェックを入れ、「結果」をクリックします。



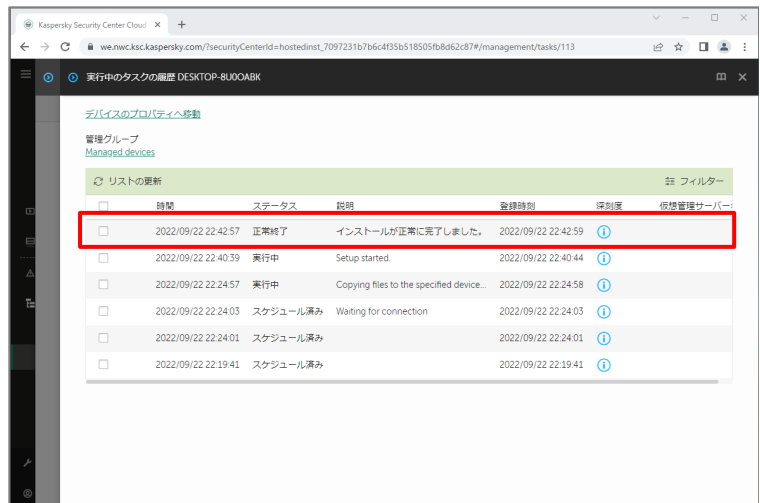
- (11) タスクの進捗が表示されます。
詳細確認の為、「履歴の確認」をクリックします。



- (12) 確認するデバイスにチェックを入れ、「デバイスの履歴」をクリックします。



- (13) 対象デバイスに対するタスクの実行履歴が表示されます。
リモートインストールが正常に完了すると、ステータスが「インストールが正常に完了しました」と表示されます。



kaspersky

(14) 対象のデバイスに KES がインストール
されます。



本節は以上です。

8. Appendix

8.1. ネットワークエージェントスタンドアロンインストールパッケージ作成後の有効期間

作成したネットワークエージェントスタンドアロンインストールパッケージは一定期間を過ぎると起動せず、インストールが行えません。有効期間は1か月が目安です。

インストーラーを実行してもインストールの画面が起動しない場合、「5.1 スタンドアロンインストールパッケージの準備」の手順を参考に再作成してください。

kaspersky



株式会社カスペルスキー

〒101-0021 東京都千代田区外神田 3-12-8 住友不動産秋葉原ビル 7F

<https://www.kaspersky.co.jp/> | <https://kasperskylabs.jp/biz/>

©2022 Kaspersky Labs Japan. Kaspersky Anti-Virus および Kaspersky Security は、Kaspersky Lab ZAO の登録商標です。
その他記載された会社名または製品名などは、各社の登録商標または商標です。なお、本文中では、TM、®マークは明記していません。
記載内容は 2022 年 11 月現在のものです。記載された内容は、改良の為に予告なく変更されることがあります。